

第2回犬山市 ICT 活用教育研究委員会 議事録

1 附属機関の名称

犬山市 ICT 活用教育研究委員会

2 開催日時

令和6年3月5日（火） 午後4時から5時15分

3 開催場所

犬山市役所 4階 401会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

丹羽 孝浩、神谷 勝治、勝村 偉公朗、小室 武、鈴木 寛央、
寺澤 多恵子、上原 敬正

(2) アドバイザー

玉置 崇

(3) 事務局

滝教育長、長谷川教育部長、大黒学校教育課長、
山田学校教育課統括主査、阪下学校教育課統括主査

5 議事内容

課長：

本日は大変お忙しい中、御出席いただき、誠にありがとうございます。ただいまより令和5年度第2回犬山市 ICT 活用教育研究委員会を開催します。進行は、犬山市教育委員会学校教育課課長の大黒が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

はじめに、丹羽委員長よりご挨拶申し上げます。お願いします。

委員長：

こんにちは。犬山南小学校長丹羽と申します。年度末3月に入りまして、中学校は明日卒業式、おめでとうございます。小学校も卒業式の準備が始まり、会場も整ってまいりました。私自身も校長として初めての卒業式ということで、式辞の準備をし始めているところです。そんな中、本日この会へのご参集、誠にありがとうございます。またアドバイザーの玉置先生、今回はお越しいたいただき感謝申

上げます。よろしくお願いいたします。

さて学習者用情報端末が1人1台配布されまして、使ってみよう、触ってみようという時から、それを使って活用していこうという段階に入ってきました。子どもたちの様子を見ていても、1日の中で端末に触る時間が日に日に増えている、触らない日がないぐらいの、そういう学校生活が展開されています。本校の状況をお話させていただくと、今年度本校と他校、千葉県の小学校でしたが、オンラインで結んで授業を行う活動がありました。また、今ちょうど学年のまとめの時ですけれども、教科書問題のまとめの問題を解くだけではなく、時間を見て自分の学び方として早く問題が解ければ、タブレットの問題を解くといったように、学習の学びにもいかしている子たちが増えてきたなと思っています。そんな中、子どもたちは総合学習で端末を使って探求したものを発表するために、プレゼンテーションを使います。今年総合学習を始めた3年生も使っていて、1年生から使っている子たちがそんな活用をしているというような現状でございます。

本日は協議の中に時期を見据えた情報端末の整備や更新についての内容があります。事務局の説明のもと、委員の皆様、また忌憚のないご意見を出していただきまして、この会がよりよい時間になりますようお願い私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

課長：

ありがとうございます。

改めましてこの委員会につきましては、犬山市教育委員会の附属機関に位置付けられていますので、附属機関等の設置及び運営に関するガイドラインに基づきまして、委員会は公開し傍聴が可能となります。今のところ傍聴には出席はありません。また会議録につきましては、市のホームページへの掲載となります。この会議録につきましては、事務局で作成したものに、委員2名以上のご署名をいただいておりますのでお願いします。

なお、本日は梅田委員が日程の調整がつかずご欠席の連絡をいただいておりますが、8名の委員のうち半数以上が出席いただいておりますので、この委員会の規則第6条により成立することをご報告申し上げます。先ほど委員長からもご紹介ありましたが、アドバイザーの玉置先生にもご出席いただいております。

続きまして、本日の資料等ご確認をお願いします。事前に配布させていただいておりますがお願いします。

- ・令和5年度第2回犬山市 ICT 活用教育研究委員会 次第
- ・犬山市 ICT 活用教育研究委員会 委員名簿

- ・資料1 犬山市 ICT 活用教育促進に関する整備状況について
- ・資料2 学習用コンピュータ最低スペック基準について
- ・資料3 学習用情報端末の利用アンケート
- ・参考資料 犬山市 ICT 活用教育研究委員会規則

資料等の不備がございましたら、事務局までお申し出ください。

なお、本日の会議の終了時間は、午後5時を目途とさせていただきたいと思えます。

以降の取り回しにつきましては、犬山市 ICT 活用教育研究委員会規則第5条第3項の規定に基づき、丹羽委員長にお願いいたします。

丹羽委員長：

先ほど説明のありました会議録の署名につきましては、名簿順にお願いしたいと思えます。今回は小室委員と鈴木委員に署名をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

それでは次第に従い3協議事項に入ります。資料1 犬山市 ICT 活用教育促進に関する整備状況について、事務局の説明を求めます。

事務局：

《資料説明》

委員長：

事務局から説明がありましたように、調達方法が共同調達へと大幅に変更となりました。共同調達については、今後愛知県の方針や会議で詳細がわかるかと思えます。現時点で協議いただくことは難しいと思えますが、何か質問があればご発言をお願いします。

アドバイザー：

私から補足させてもらいます。昨日、愛知県教育委員会が主催した共同調達のキックオフ会議がありました。大前提としてなぜ共同調達になったかということをご理解いただきたいと思います。現在のGIGA端末の導入では、各自治体に任せたために、整備状況の格差がありすぎて、ネットワークが弱い地域があつて繋がらないとか、ある地域は時間指定をして学年ごとに使っているというところがあります。それから、市内でも学校の活用の格差がありすぎる。格差をなくすためのアイデアとして共同調達の方針となりました。つまり、共同調達して市町の格差をなくして、しかも市町によって申し訳ないけど、市によっては全くコ

ンピュータのことをわからないで担当やる人もいるわけですよ。また、予算確保の必要もあるため、そういうことも補助しようということで、共同調達ということで動いているわけです。もともと共同調達は初めてではなくて、校務支援システムの共同調達を県でやっているところもあります。奈良県は全部一緒の校務支援システムが入っています。愛知県はそれはやらなかったということなので、愛知県にとっては初めての共同調達ということはありますけど、国としては初めての試みではないということをもっと押さえていただきたいということです。

今後の流れを簡単に言うと、国はいわゆる Chrome も iPad も Windows も認めているので、多分市町でアンケートが取られると思います。犬山市はどの OS で行きますかと。そうすると、おそらく Chrome を使っているのでわざわざ iPad に変えないと思いますけど、もちろんそれは論議してもらえばいいですけど、Chrome でいきましょうと言ったら Chrome を使っている市町で集まって、業者が出してくるスペックを調査しながらこれでいこうという会議が、今後具体的に始まっていくと思います。Chrome を導入していく市町で会議がやれるので、他の市町のノウハウをうまく使いながら、よりいい地に着いた、犬山市がさらなる ICT の活用に行くのではないかなということを私は予想しています。特に、愛知県では春日井が国の実践例としていっぱい例を出していますので、そういう意味でいけば、Chrome でも Google でやっているの、そのノウハウをそういう調達会議を含めて使い方をみんなで学んでいけば、結構いいのではないかなということで、そんな流れになるというふうに私は把握しています。

委員長：

共同調達について、それと格差をなくそうという話がございました。ありがとうございました。

アドバイザー：

もう 1 つよろしいですか。国がものすごく問題視しているのは、今後犬山市でも当てはまってくるのは、小学校中学校の全国学力学習状況調査で、端末を毎日使っていますかという調査をしたら、毎日使っていると答えた自治体というのが小学校は 65%、中学校も 62~63% いています。だったら、子どもが自分で調べたり先生とやりとりしたり、子ども同士がやりとりして学び合っているときには端末を使っていますかという調査も、65% ぐらい来るものだと国は思っていました。ところが 10% 代程度に落ちているということ、これをとても問題視しています。つまり本当にクラウドのよさを分かってないのではないかなということですね。今度財務省がすごく厳しくなるというのは、要は毎日使っていると言っても先生からデータを子どもに送っただけ。これで毎日使っ

いると答えている。それでは、これだけの税金を使っている良さが無いということですね。悪い言い方をすると、このままクラウドで子ども同士が繋がっていなかったら、単なるコンピュータ室のコンピュータを外に持ってきただけの話で、全然駄目だと言われてしまいます。このことを、国自体が問題視していて、この数値を上げたい、上げるためにある自治体はネットワークが弱すぎてやれないとか、やり始めて初めて気づいたとかそういうような非常に初めのところがやっぱり整備がしきれてないところがあり、共同調達にし、加えて最低スペックというのを出しているわけですね。

委員長：

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

つづきまして、資料2、学習用コンピュータ最低スペック基準について、事務局の説明を求めます。

事務局：

《資料説明》

委員長：

ただいまの説明について、質問等があればご発言ください。

小室委員：

3つのOSの端末の方でということですが、共同調達でわからない部分があるので教えていただきたいのですが、これは県で1つに決めるわけではなくて、3つの端末それぞれ自治体が集まって協議をするという認識でよろしいですか。

事務局：

はい。

小室委員：

逆に言うとiPadに変えることも可能ということですか。

事務局：

はい。可能です。

小室委員：

一つ質問というか検討いただきたいこととして、例えば Chromebook にした場合に関して、キッティングの中に予算を組むことができるというはどこかに書いてあったと思うので、キッティング処理だけが入るかわからないですけども、その中に含めることができるのかどうなのかがちょっとわからなかったのも、もしわかれば、予算の中である程度含めていくことができるのか教えてください。キッティングは基本的には最初の設定をやっていたかないと、端末が突然届いてどうすればいいかみんなもわからなかったところがあったので、キッティングは中に入れることはできるとは書いてありますが、自治体の中でその予算をもともと計上していただく必要が出てくるのかなということがあると思います。

もう一つ質問ですが、3つのOSの中で選んだ上でかつ、その仕様書をそこで検討して仕様書を持ち帰ってその仕様書で自治体が契約するという形ですか。契約は各自治体が随意契約するというのは、資料の5番に書いてあります。県で一括発注されるわけではないということでしょうか。共同調達の最終段階で市町村が事業者と個別に随意契約を契約すると想定しているところと書いてあって、こういうところがまだ始まったばかりでわからないので教えてください。

事務局：

ガイドラインの12ページに運搬、キッティングの年次更新等ということで、仕様書にもキッティングについて明らかにすることと書いてありますので、おそらく共同調達会議でこちらも随時わかってくると考えています。基本的には共同調達会議ですので、県で取りまとめてその業者選定まで行い、その決まった業者と市が随意契約をするという流れになるのではないかなと考えています。県でどこまで行うのか、順次確認が必要になる点だと思っています。

小室委員：

この共通仕様書を策定する段階でおそらく市のご担当者が出て行かれたときに、多分検討されることになると思うので、総額の予算に対して、もしスペック等でみれるところを国の予算外にするのか、予算の中に入るのかだけちょっと意識していただいて、どちらに予算をふるのかというのを検討していただくと非常に助かるなと思うので、ぜひよろしくをお願いします。

委員長：

他いかがでしょうか。

アドバイザー：

ソフトの動作についても、方向は皆さんでお決めになられます。ある市で関わってきましたが、実際に学校が使って見て比較しないと、やっぱりいけないかなという意見があり、アンケートを実施し、データ結果から、やはりこれがいいという数字が出ているということで、予算立てをしている、そういう市があります。今後のことも含めて、もしそういうシステムが取れたら、その方がいいと思います。この委員の中は、市の附属機関であり検討することになると思いますが、実際にある市では、業者に依頼して特定に無料で使って見て、実際に操作感とか子どものアンケートをとって、それを裏付けにしてこれにしようとしています。それは説明責任が付くと思いますね。誰が決めたのかという話になるので、その辺りは1つのテクニックとして私に関わっている市で実際にありましたので、参考に述べさせていただきました。実は、この市ではあるソフトを入れていて、これはとても初めの計画より稼働率が悪いということも含めて、いろんなデータから実際に比較してみようという動きになっています。業者は、いろいろやれると言いますが、実際はやれないことも多いため、そういうテクニックを取られてもいいかなと、参考までにお話させていただきました。

委員長：

他ご意見ありますでしょうか。

神谷委員：

今のお話でお伺いしてもいいですか。資料1によると10月に予算要求ということはこの段階で決まっているということですね。OSも決まっていなければいけないわけですね。そうすると、今の玉置先生のアドバイスを受けてアンケートをやっていくとすると、すごく難しいかなと思いました。

聞きたいのは、10月に予算要求、いつまでに僕たちはこれだという意見を市教委に言って、動かすことができるか。意見を述べる可能性がある時期はいつまでかが知りたいです。なぜかというと、今、端末の保管庫がとても扱いにくいんです。毎日持ち帰らなければ今のままでいいんですけど、もし毎日持ち帰るといようなことをすると、今のはすごく使いづらいです。保管庫を決める時にこんな方がいいよとか、使ってみてということをやらなかったからかな、やっていれば反対したと思います。そういうことからすると、使ってみるといのはとても大切なことだと思うけど、いつまでにそれをやるのか。今の玉置先生のアドバイスを入れる時期がないような気がします。そうすると、前回の保管庫のような些細なことだけど、大きい事が消えていってしまう。今学校が一番欲しいのは、僕はOSのことよりも家のACアダプターを1つずつ持たせてもらえば、毎日持ち帰れると思います。

委員長：

10月の予算要求に向けてのさらに日程がでてくるかどうか。

教育長：

予算について、国が5万5千円という金額を示しているかもしれないけど、予算要求するにしても、単にどれを使うかわからないところで予算要求はできないですね。ということは、この10月に予算要求するまでのところで、機種を選定しなければいけないと。それで共同調達会議も参加をしないといけないとなると、これよりもうんと早めのところで、機種を選定しなければいけないということでしょうか。例えば Chromebook から iPad にするよと言ったときに、保管庫はそのまま使えますか。GIGA 端末と保管庫はセットで借りているのですか。

事務局：

保管庫は購入しています。

教育長：

どうして学校が使いやすい保管庫を買ってやらなかったのか。

神谷委員：

あの時は、端末の決定から保管庫の整備まで、もう駆け足で先の先まで決まっているような状況でした。

アドバイザー：

県は共同調達の日程は出していますか。

事務局：

まだです。この10月の予算要求というのはあくまでも市のスケジュールでして、詳細を申し上げると、これより前に予算要求の前の仮予算要求みたいなのが実は5月にありまして、その時点ではある程度、更新に係る費用を計上しなくてはならない状況です。

5月の段階では、国の補助金が5万5千円なので、前回は補助金4万5千円という中で今の Chromebook については調達をしていますので、5万5千円を上限に調達という数字を出さざるを得ないと思っているのが現状です。

OS についても、共同調達会議の具体的なスケジュールが全く見えないもので

すから、それがわかり次第合わせていくということになると思います。

小室委員：

前回決まった時もおそらく何もなく、いきなり決定した部分が出てきて、ではロイロノートとか入っているのかというところをこの委員会に聞かせていただいたのですが、現在のスペックだけでやりますという状態でした。おそらく予算が出きってしまったのかなと思いましたが、その予算の中で今この状態になっているとすると、正確な単価がでなくても、内容によって国の予算外で契約するつもりだというふうにしていただく必要があると思います。特に多分相場がなかなか難しい業界ではあると思うので、端末に対して5万5千円の残りのところの足し算で、ソフトウェアをプラスで契約することになると思うのですが、おそらくコラボレーションソフトを使おうと思った時には、もう予算外に出る可能性が非常に高いので、そちらはもう別立てで予算を計上していただいて、ぜひ5月の仮予算の時に計上していただきたいと思います。

合わせて、今、事務局から出していただいた3つのソフトウェアの中から選ぶ予定で、概算で1人当たり何円だとかというのは多分わかると思うので、概算でぜひやっていただくのと、少なくともこの3つを選んでいく必要があるのかなと思います。

アドバイザー：

先生が言うようにこれももちろん標準があって、これもうちの市としては入れたいけど、例えばロイロノート、多分犬山市だけではないと思うので、そうすると同じChromeでロイロノート入れたいなというところが集まれば、業者が単価を考えてくるという動きは随時あると思います。多分そうやってきますね。そうになると、ここまでだったらうちも入れましょうとか、それがまさに共同調達で同じものを入れてこうという、今までにない上手い情報交流ができれば一番いいです。これは理想論ですけど、でもそういうふうに絶対やりとりになりますよね。端末だけ入れるわけではないので。プラスアルファといった時に、その希望を聞きながら行くという経緯になると思います。値段優先にならないように、それを検討する時間を設けていただけるとよいと思います。

神谷委員：

委員の皆様にお聞きしたいですけど、今Chromebookを使っていて、年配の方たちは大変苦勞してここまでやってきました。私の感覚では我が校の先生方は、よく使ってくれているなと思っています。それは若い先生たちが上手く巻き込んでやってくれたからだと思っていますけど、南小ほどのことはできてないで

すが、それでも年配の先生まで使っています。ここでまた OS が変わるとい
うのはどうかと感じています。あわせて、できれば丹葉地区の市町で OS を揃
えたいです。丹葉地区は人事異動で行く地区なので、せつかく 5 年に一度
のチャンスなら揃うとよいと思います。

鈴木委員：

犬山市の小中の先生たちが集まる ICT 活用研究委員会の方の会議でも、
やはりどの先生も会の中で、丹葉地区で出張に行くときみんなロイロノ
ートを使っていていいよと噂を聞くので、やっぱりロイロノートで犬山
市も行きたいという声が多数上がっています。玉置先生のおっしゃると
おり、いろいろやった上で選ぶというのが一番いいのですが、我々は丹
葉管内の異動があるから、その点を踏まえると、そこの市町で揃えて
いただけるのが一番よいです。ソフトウェアについて見てみましたが、
メーカーが違うだけで中身は結構似通っているので、ならばそういう
選び方をさせていただければ助かるなと思います。

あと江南市は端末が壊れたりした時の修理の対応が、その学校に保有
している台数が上限となっており、上限台数を越えたら対応できない
というふう聞いています。犬山市は業者が端末の調達も修理のサポー
トも全部やってくれていて、どれだけ壊れても出したら 2 週間で戻し
てくれるというのがとてもありがたいです。小学校だと、やっぱりど
れだけ気をつけて指導しても壊してしまうので、この仕組みはとて
もありがたくて、共同調達になった時に、今後も今までのような修理
サポートを継続していただけるのかどうかというのが、小学校の現場
としては気になっているところなので、もし決まっていたら教えて
いただきたいです。

事務局：

鈴木委員がおっしゃられたように、端末の Chromebook のリース契
約の中に保険適用を組み入れて犬山市は契約をしています。そのため
修理時には業者と学校がやりとりをし、すぐに修理対応しています。
この部分が共同調達になった時にどうなるかというのが、まだ見え
ていなくて、市としても保守があるかないかでやはりかなり違っ
てしまっていて、自然故障もそうですし、事故による故障が多数
ありますが、保守があるおかげでまわせているというのが実感とし
てありますので、次期も必要であるとは認識しています。共同調
達の中でどこまでその保険がつけられるのか、またそれを市独自
でつけなくてはいけないのかというのは、ちょっとまだわからな
いものですから必ず今のようにできますよというところまでは、
情報が無いというのが現状になります。

課長：

ちなみに端末リース会社と保守は別会社で契約しているので、その形がとれれば、今の形は継続できる可能性はあります。

教育長：

5月までのところで、学校現場で、継続してGoogle Chromeを使うのか、機種を変えるのかどうすると言ったって、ある程度先生方の声を聞いて、教育委員会としては、やっぱり判断していかなければいけないです。機種については先生方のご意見を聞いて最終的に決定したので、前にこうだったから次もこれというのではなくて、1度使ってみて感想を聞いたところで次どうしましょうと言っても多分、ずっと犬山にいる人はこれしか使っていないので他のことはよくわからないかもしれない。だから試しに3台、Windowsと、Googleはあるから、iPad、ちょっと貸してと言って、この委員の方々に使ってもらって、これがいいあれがいいということであれば検討材料にはなるのかな。特にそういった声があれば継続してやっていくのも1つだけでも、それについても納得してもらわなければいけないですね。

課長：

先ほど玉置先生がおっしゃったある市で使ってみたというのは、どのぐらいの期間ですか。長い期間ですか。

アドバイザー：

それほど長くないですよ。集中して1ヶ月ぐらいだったと思います。そんなに長くではなくて、とにかくパンフレットだけではわからないので、声があるので、実は教育委員会はある程度こっちがいいだろうと思いながらやっぱり両方裏付け欲しいようでした。

教育長：

玉置先生、あちこち回られて、WindowsとGoogle ChromeとiPadだけど、どれぐらいの割合で使っていますか。

アドバイザー：

Chromeが多いです。国もそれを出していますが、愛知県はChromeが多いのではないですかね。

委員長：

ありがとうございました。

つづきまして、資料3、学習用情報端末の利用アンケートについて、事務局の説明を求めます。

事務局：

《資料説明》

委員長：

学習用情報端末の利用アンケートについて説明がありました。

今年度の結果や3年間の推移を含め、日頃皆さんが現場で感じる子どもたちの様子や変化について率直なご意見をお願いします。お一人ずつ学校の様子などご発言していただけますでしょうか。

寺澤委員：

いろいろお聞きしながら考えてみました。まず、玉置先生の方から、市町で活用格差がある。では自分の学校はどうかと思った時に、校内でもかなり格差があります。得意な方と苦手な方。まず何ができるかな、まずは校内の格差をなくすことは、すぐにでもできることだなと思ったので、ちょっとそこは考えてみたいと思っています。

そして自分の子どもが高校生と中学生で端末をもちろん持っていて、高校生の方は毎日持って帰ってきています。そして中学生の方は、長期休みに持って帰ってくるものの、やはり使っているところは全く見ない状況ですので、これだけお金を使って端末をいただいているので、子どもたちが家に帰って使いたくなるような仕掛けはどういう方法があるかな、手だてがあるかなということを考えながら、今後課題として学校に戻って、職員と話し合っ活活用をどんどんしていきたいなと思いました。

鈴木委員：

アンケートの項目についてですけれども、以前までは犬山市の情報端末を使っていく目標が、確か「児童同士を繋げる」であったと思います。そういった目標があつてのアンケートになってくるのかなと思うので、もしこのアンケート内容を考えるのであれば、まずはその目標を検討するのが必要になってくると思います。

神谷委員：

学校の中では格差というのはやはりあって、なかなか思ったように当初の目

的に達するような動きが全員できるかという点、できてないと思います。もちろん私を含めたリーダーシップを取る者も、そこまでのところに研究していない、できていないところが大きな原因だと思います。私たちがリーダーシップをしっかりと、こういうふうにとやる、使わなければならないような状況に導いていけば、もう少し伸びると思いますけど、リーダーシップを取る職員のノウハウにも差があるため、難しいと思っています。

アンケートを4番、5番について、この聞き方で私たちが知りたいところがわかるのかなということは思いました。

委員長：

職員の格差がありますけど、やはり朝デジタル黒板に提示して、それを端末に載っているのを見てやる、教師からのアウトプット、それから動画を見て、それに合わせていろいろ振りつけをする、行事に向けてのダンスでそれを見る。そういうような教師からのアウトプットで子どもたちはそれを見て活動する内容でよく使われていると思いますけども、先ほどあった共同的に意見交流する中、クラウドで上げてというところが、やはり堪能な方とまだまだこれから使っていないかなという状況はあるかなと思っております。

では中学校の方、お願いします。

小室委員：

資料3を見せていただいて、中学校が微増になっているのと同じような実感を持っています。やはり教科を指導する部分があり、なかなか教科特性の中で、すぐに変えにくかった部分もありますが、中学校の先生の中では、これは他の教科で使っていたから使ってみようかなということ、年々実は取り入れてくださっていて、ちょっとずつこの単元のここでは使えるということが、少しずつできてきているところで、微増に繋がっているのではと感じました。校内で教科によって使えたり使えなかったりは正直ありますが、その中でもこれ面白そうだなというのを見つけて取り組んでいる先生が本校には多いので、他の学校でもやっていただけるとよいと思いました。

勝村委員：

教科で使用するよりも、今うちの生徒の状況を見ていると、例えば、今2年生が来年度の3年生になった修学旅行に向けての取り組みをしていますけども、子どもたちが自分たちでアンケートみたいなものを自分たちのタブレット中に発信して子どもたちでそれを集約しています。先生たちの技量の差は置いて、子どもたちの技量がどんどん高まっていく中で、教科を超えたところで子どもたちが、生徒がそれをうまく使っている。びっくりするのは、保護者にま

でアンケートをとろうとしているとか、そういうことを子どもたちが自分たちでできるようになってきているというのは、タブレットのおかげだと思いますね。だから教員の力量の差というのは確かにありますけど、「先生、理科の先生はこうやって振り返りをしているよ」と子どもたちが言うから、国語の先生もやってみようかということが中学生は可能です。だからどんどん広がっていくと思うので、判断は必要になるかと思いますが、生徒の使う制限をどんどん外していってやれば、クリエイティブな使い方をしていくのかなということはずごく感じます。授業の中だけではなくて、家に持ち帰っていても、多分、教科で使っているのではないと思います。特別活動で、自治会の子たちが今度の提案で何をしようかというのを、自治会のクラスルームでやっていたり、本当に子どもたちの方も、よい結びつきが時間を超えてできる。そういうのにすごく貢献しているのかなというふうに思います。下校時間が早くなる中で、子どもたちがどこかで自分たちの学校のためとか、今度の行事のためとかそういうことを考えて使っている様子を見ると、何か自分自身は子どもたちの可能性みたいなものをすごく感じてわくわくしますね。先生がこうやって使えということだけではなくて、中学生ぐらいになれば、いろんな使い方を彼らが考えていく。それが彼らが育っていくということに大きく繋がっていくということを見ると、それだけでもタブレットのメリットは大きいのかなという感じがします。

委員長：

ありがとうございます。小学校中学校の現状いろいろありました。上原委員、何かありましたらお願いします。

上原委員：

機器の調達はなかなか難しいかなというところがあって、現状は個別入札でやってきた経緯がありますが、今度共同調達にあたって、先ほどお話を5万5千円という上限が出るという話があり、市としては先ほど事務局から説明がありましたように、10月の予算要求より前に計上していかないといけないというところがあるので、時間がない現状はあると思います。結局この5万5千円というのも機械のどちらかというハードウェアの部分なので、ソフトはまた別に予算組みが必要かもしれません。とりあえず5万5千円でこれがiPadなのかどうなるかというのは計算できると思うし、先ほどの保守というところがあるものを貸し出すのか、本当に補修してもらおうかというところ、これを読んでいくと15%以内だったら想定をして整備できることになっているので、その点を詰めて、どこを厚く整備するかというところを決め、まずは予算計上することから進めるとよいと思います。ソフトウェアであったらさっきのロイロノート等、どの

機種をどの程度入れるのか、大枠を決めて、学校現場と話し合い予算を決めるのがよいと思いました。

委員長：

ありがとうございました。それぞれの現場の話がありまして、また活用のほうよろしく願います。

アドバイザー：

1 ついいですか。私の経験でいくと、昨日国から愛知県に来た武藤さんはよく、先生たちが挙手指名方式で手を挙げている子だけの意見を聞いて、心の中に思っている子の意見をとらえていますかと言います。GIGA だったら 1 人ずつの意見が入れられるから保証できますよとよく言われます。チャットを使っている学校に研究で関わっていますが、本当にびっくりするようなことがあって、中学校ですが、これについてまとめてくださいと先生が言ったら、チャットだと気軽に言えるので、生徒からまとめるってどういうことと入りました。私たちはまとめるって知っているけど、まとめてどういうこととか、それから小学校 4 年生の授業でも同じようなことがありました。そういうこと手を挙げて言えないけど、とてもよい質問をしていると感じました。

もう 1 つ関わっている学校の事例を紹介すると、子どもに聞く先生が多いほど普及しているという面白いデータがあります。これどうしたらいいのとか、こうしたいけどとかを聞いています。この学校では先生も GIGA 環境で変わってきていて、2 年前に出会った時は黒板とチョークでやっていて、ICT 活用はしない、大嫌いという先生がいましたが、2 年経ったら全く変わり端末を活用していました。何で変わったのかと聞いたら、やはり使ってみると便利ですとおっしゃっていました。挙手指名方式で意見を聞いていたところ、子どもが他の教科で使っているから、「先生、チャットに入れたらいいよ。」というので、やってみたらたくさん意見が入ってきて、今まで意見言わない子もちゃんと意見するというところを取り上げて、その制度はプラスに考えたほうが良い授業になるということをはっきり皆さんの前で言われていました。

子どもに聞いてみるとものすごいアイデアが出てきます。素直にこうしたいけどどうしたらいいと、聞ける先生が多いほど、ICT が使われているというのは面白いですね。私は先生自身が、全部マスターしないと駄目だなんて思っているうちは駄目で、子どもに聞けばいいと僕は思います。というのがデータで出ています。

委員長：

ありがとうございました。

以上で議事が終了いたしましたので、これで進行を事務局にお返したいと思
います。ありがとうございました。

課長：

ありがとうございました。最後に教育長の滝より、ご挨拶申し上げます。

滝教育長：

今、市役所の中は議会の最中でありまして、明日は中学校の卒業式が行われる
という中、また玉置先生には大学で講義をなされながら 1 年にほぼ 150 回の
講演にあちらこちらへ出かけていただいておりますというご多用の中ですけれど、
遅い時刻からスタートした会議ではありますが、会にご出席をいただく
と同時に貴重なご意見をたくさん賜りましたことを厚く御礼申し上げたいと思
います。

私、時々電車で市役所まで来ることがありますが、座席に座っていると、目
の前に座っている若者たちのほとんどはスマホを触っています。その様子を見
て、これからの日本はどんな世の中になるのかなあというふうに思うことがあ
ります。ひょっとしたら勉強されてみえるかもしれないし、ゲームをしている
かもしれない。でも考えてみれば、子どもたち 1 人 1 台の端末ももっと自由に
使ったほうがよい。日常的に使うとよいと先ほど勝村委員の意見がありました
が、玉置先生が最初おっしゃってみえましたね。制限をかけないほうが子ども
たちの活用の幅が広がって、まさにすてきじゃないですか。だから先生が使えなく
ても子どもが使えるようになる、そんな姿が見られて嬉しいなと思います。

学校訪問で学校現場に行かせていただきますけれども、僕は犬山の学校現場
というのは、多少先生の差はあるにしても、子どもたちはよく端末を使っている
なというふうに感じています。ということは、あの当時は 1 台 4 万 5 千円でした
かね。十分に元が取れていると、個人的には思っています。

膨大な経費をかけて整備をした ICT 環境であります。授業での活用は元より、
個々の子どもの学びを支えるようなそんな活用ができるように、市教委も学校
現場もまた情報政策課も玉置先生にもお力を借りながら、今後も進めてまいり
たいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。本日はどうもありがとうご
ざいました。

課長：

それでは、これをもちまして第 2 回犬山市 ICT 活用教育研究会を閉会とさせ
ていただきます。ありがとうございました。